

2008 年度

科目名 日本文学特講Ⅲ	対象学科・学年 専攻科教福1回生	担当者 鈴木 利一
授業テーマ 風土記歌謡および萬葉第三期作品群の研究		
授業の概要と目標 風土記歌謡と萬葉第三、四期作品群との相互関係を具体的作品の読み解きから考察したい。		
評価方法 講義への出席状況（40%）、課題の提出状況（40%）、課題に取り組む姿勢（20%）等を勘案し、総合的に判断します。		
テキスト 『補訂版 萬葉集 本文編』	著者 佐竹昭宏・木下政俊・ 小島憲之	出版社 塙書房
参考書	著者	出版社
授業スケジュール・内容 本年度は、風土記及び萬葉集第三、四期作品群の成立と展開を各作品の読みに即してたどります。講義形式は演習方式とし、発表担当者の作成した資料に基づいて、討議を重ねる中で、当該作品への読みと理解を深めていきたいと考えています。 まず、前期の講義スケジュールと扱う作品は以下の通りです。 ①上代和歌史概説（1～3週） ②風土記及び収載歌謡概説（4～5週） ③常陸国風土記歌謡輪読（6～15週） 後期の講義スケジュールと扱う作品は以下の通りです。 ①播磨国風土記（逸文を含む）歌謡輪読（1～5週） ②肥前国風土記（逸文を含む）歌謡輪読（5～10週） ③丹後国風土記逸文収載歌謡輪読（10～15週） 上代は、残されている文献資料が限られているため、発表担当者は、可能な限り資料探査に努めて下さい。その課程では、遣唐使等によって舶載された可能性のある漢籍へのアプローチも必要となります。また、新たな資料探査法としてインターネット上の図書館・研究期間のサイトを利用することも必要になってきます。そうしたオンライン情報や電子データの取り扱いについても、機会のあるごとに解説し指導していく予定です。さらに、民俗学や歴史学・考古学等の関連諸学による成果にも触れ、総合的な視点から上代日本文学を考察する能力を養っていきます。		